

## 昨年度の成果と課題

## 取り組みにおける成果と課題

- ・ 一年の行事の中で、6年は運動会で「宇宙戦艦ヤマト」「ファンファーレ」「校歌」「ドラムマーチ」「得賞歌」を演奏した。6年生を送る会では合奏「木星」を、卒業式では二部合唱（「いのちの歌」他）を演奏した。5年は連合音楽会、6年生を送る会、卒業式で合奏「威風堂々」を演奏した。4年は1/2成人式で合奏「テキーラ」を、3年は6年生を送る会で「エーデルワイス」を演奏し、子ども達は大変よく頑張り、さらに発表することにより大きな成長がみられた。音楽を通して学校行事を大切に、参加する気持ちを、特に高学年には自律心と責任感を培っていききたい。
- ・ 集団としての表現の仕方の工夫については、学年が上がるに連れて好ましい協力の仕方ができるようになってきている。より豊かな表現ができるように指導を重ねていきたい。

## 平成28年度の実態の分析

## 結果の分析

- 「関心・意欲・態度」については、発達段階に応じた内容の歌唱や器楽演奏や音楽鑑賞に意欲的に取り組んでいる。
- 「感受や表現の工夫」については、発達段階に応じ、歌詞の意味や旋律の特徴や音の重なりを感じ取っている。自他のよさを生かしたより豊かな表現を目指すことが課題である。
- 「表現の技能」は、歌唱については、授業に発声練習を取り入れ、4～6年は二部合唱に取り組むことにより、お互いの響きを味わいながら歌えるようになってきている。器楽演奏については、基本を丁寧に指導することにより技能が身に付き、自信をもって表現できる子どもが増えてきている。
- 「鑑賞の能力」については、いろいろな機会を通じて歌声や音の響きを感じ取れるようになってきている。さらに鑑賞の仕方や音楽の楽しさの味わい方を身に付けることが課題である。

## 実態分析に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- 個人差に応じた指導を通して、一人一人の表現の技能を伸ばす。
  - 低：体を使った表現などを取り入れ、関心・意欲を高めながら、楽しんで歌唱や器楽演奏などの表現に取り組めるようにする。
  - 中：リコーダーの入門期にタンギングや指のおさえ方の指導を丁寧に行い、基本的な技能をしっかりと身に付けるようにする。
  - 高：学年の進み具合や各学級との連携を図りながら、必要に応じて個別指導を行い、各自の資質や能力を高める工夫をしていく。
- 友達とのかかわりを通して、集団としての表現の仕方を工夫する。
  - 低：友達と声や音を合わせたり聴いたりして楽しさを味わわせ、集団としての表現に取り組もうとする意欲を高めるようにする。
  - 中：一つ一つの音を大切に作る姿勢を身に付け、より豊かな表現ができることを目指すようにする。
  - 高：学校や地域の行事に参加する機会をとらえ、先輩たちが担ってきた伝統を意識しながら表現の工夫への意欲を高め、より豊かな表現を目指すようにする。児童全員が自信をもって合唱や楽器の演奏ができるようになることを目指し、二部合唱や器楽合奏の取り組みに力を入れる。
  - 全：音楽朝会を月に1回行い、全校児童が一緒になって今月の歌を合唱する。また、各学年や合唱団の演奏発表も取り入れ、友達の演奏を聴くことでさらに音楽への興味・関心を高めるようにする。